

# 平成28年度 第3回がまごおり協働まちづくり会議要旨

日 時 平成28年10月28日(金)  
午前10時00分～午後12時00分  
場 所 蒲郡市役所新館6階601会議室

## 1 開会

- 和泉会長挨拶と出欠確認
- 事務局より報告
  - ・ 前回の第2回がまごおり協働まちづくり会議要旨を振り返る
- 結論
  - ・ 会議要旨の承認＝会議要旨の公開

## 2 議題

### (1) まちづくり助成金ワーキングの報告について

#### ア 2回実施してきたワーキングの報告

- 事務局より説明
  - ・ 議論してきた内容を整理し、7つの部門案での提案メニューとなった
  - ・ 事務局として「社会見学部門」「団体助成対策」がすぐに着手ができそう
  - ・ 「社会見学部門」の3パターン構想案を提案メニュー
    - 案①：既存制度の申請をし、プラスαで金額を増額する部門構想
    - 案②：既存制度に加え、新たに別枠で部門設計をする構想
    - 案③：既存制度に加え、新たに別枠で部門設計をし、「はじめの一步部門」「社会見学部門」は随時募集をして、ほとぼしる情熱部門で予算の残額があれば、「はじめの一步部門」「社会見学部門」へ流用できる構想
  - ・ 団体助成対策として5年/5回で助成制限する提案メニュー
  - ・ 他の部門案については今後議論を重ねていく
  - ・ 制度緩和策として対象経費の流用性を提案

#### イ 委員より質問および指摘事項

##### <社会見学部門案>

- ・ 社会見学部門で単に旅行へ行ってくるような制度になってしまうと良くない
  - 旅行にならないように、まちづくり会議等で発表させてはどうか
- ・ 通年で申請できるのは良い
- ・ 助成金申請できる団体であれば、そもそもはじめの一步部門で申請してくる
  - そこまで至らない団体が申請できる気軽な制度が良い
- ・ 最低人数を3人から5人であれば社会見学の目的が果たせてもらえるのでは

##### <団体助成対策案>

- ・ 同じ団体が何回も何年も助成されてしまうことで不公平感が発生してしまう
- ・ 仮に、助成率を下げた場合、不足分を他部門から補ったとしたら“税金の二重投資”にならないか？
- ・ 助成制限をしている豊橋市では、助成されずに団体が消えてしまっている

- ・助成制限するのは良いが、知恵や自立に向けたサポートはしてもらいたい
  - ・制度で制限するのではなく、運用で対応させて欲しい
- <対象経費の流用化>

- ・市民団体にとって使用しやすい制度にするのは良い

ウ 結論

- ・社会見学部門化ではなく「はじめの一步部門」で調査研究費として進めていく
- ・「団体助成対策」はすぐに制度化するのではなく運用で指導していく
- ・対象経費の流用化について了承

(2) 助成金事業の進捗について

- 事務局から資料4、5について説明
  - ・現在の助成金事業の実施状況について報告
  - ・「詩吟・朗詠愛好会 昇寅会」の事業中止申請について報告
    - すでに支払った助成金の取扱いをどうしていくか？
- 委員質問等
  - ・なぜ中止となってしまったのか？
    - 小中学校を当てしていたが、年度初めでは計画を組むのに遅すぎた
  - ・次年度以降の活動はどうしていくのか？
  - ・この中止実績をしっかりと生かしていくことで成果があったと言える
- 結論
  - ・中止に至った経緯からしても助成金以上の労力を費やしているため、助成金の返金を求めない

(3) 次年度の助成金募集期間について

- 事務局より説明
  - ・従来 of 募集期間では最終日に駆け込み提出があり、まちづくりセンターとしても対応が厳しいため、「はじめの一步部門」よりも早く「ほとぼしる情熱部門」の募集期間を締め切ることで、その改善を図りたい
- 結論
  - ・しっかりとした対応をすることが可能であれば、募集期間を変更しても良い

(4) 次年度の協働モデル事業について

- 提案委員より説明
  - ・現在提出されている内容の説明

3 その他

- 賀詞交歓会の開催日のお知らせ

欠席者 西川委員、小林浩委員、鈴木委員  
数 11人中出席委員8人（会議成立）